

ホ・奉呈の意味を申し上げる^{ほつてい}

文章

解題・はじめに

『ホツマツタエ』は、ヒトのヨの十二代ヲシロワケたしむ(景行天皇)のキミの56年に、最終の編集が為されて40アヤにまとめられました。そうして、時のスハラキ(古代の天皇陛下)の十二代ヲシロワケ(景行天皇)のキミに献上されました。現代に、ひとくちに申しましたら、『ホツマツタエ』など「ロシテ文献」は、『古事記』『日本書紀』の原書という事で御座います。

「ロシテ文献」のひとつの『ホツマツタエ』は、全巻が、1アヤから40アヤまでの長大な文献です。文献成立時には、卷子本の仕立てで絹本であったと想像されます。現在に発見されている最古の完写本は、江戸時代の中頃のものです。江戸時代頃での漢字訳文が付記されています。この、江戸時代の漢字訳文は、直訳的なレベルです。直訳文では、漢字国字化時代以降に定まってきた語彙の意味に時代錯誤に当て付けられて、いわゆる擬古文の「偽書」風になってしまいます。

本当の、我が国のうつくしさは、ロシテ文献の成立時にあったはずで。どうしても、漢字の文章への直訳的な翻訳の以前に遡って、言葉の意味を考へ直してゆく必要が有ります。

つまり、ひとつひとつの言葉を、『ホツマツタエ』など「ロシテ文献」のすべての用例に当たってみて意味内容の通じる概念を構築してゆく作業です。『ホツマ辞典』(松本善之助装丁、池田満、展望社)に、工程のほどをまとめていますのでご覧いただけます。漢字以前の時代の言葉にまで遡って『ホツマツタエ』など「ロシテ文献」を読み解きますと、直訳のレベルとは、まったく違った世界が広がってまいります。我が国の貴さを、本当に実感するには、漢字以前の時代の言葉にまで遡らないと不可能です。『ホツマ辞典』(松本善之助装丁、池田満、展望社)など、わたくしの著作にカタカナ書きの言葉が多いのは、この事情によりです。この意味をふまえて、当解説文をお読み願いたいと存じます。

『ホツマツタエ』の最終の編集者は、オオタタネコ(タタネコとも言う)

です。大神神社（三輪神社）の若宮（大直祢（禰）子神社）おたねこじん（じゃ）にお祭りされている人物です。年表『ホツマ辞典』288ページ参照）を繰ってみましたら、オオタタネコは、アススのコヨミの610年の生まれになります。オオタタネコの生誕年のアスス610年は、ヒトのヨの九代フトヒビ（開化天皇）の世の50年目の年に当たります。そして、『ホツマツタエ』の、最終の編集が為されて40アヤが、十二代ヲシロワケ（景行天皇）のキミに献上された年の、ヲシロワケ（景行天皇）56年は、アススのコヨミの843年に当たります。

『ホツマツタエ』は、代々書き継がれてきていたと推測されます。記述上に残る編集者は、もう一人記録にあります。クシミカタマと言う人物です。クシミカタマは、『ホツマツタエ』28アヤまでを編集してヤシロに置くことにしました。この年は、アススの50年の事でした。前篇と後編の編集された年月差は、実に、793年にもの長い期間にわたります。

クシミカタマが『ホツマツタエ』28アヤまでを編集したのは、タケヒトのキミ（後の神武天皇）のためを思っていたの事でした。この編者のクシミカタマは、大神神社（三輪神社）の本殿から少し南に200m程度の位置に神坐日向神社ひむかしのあるいは、三輪山山頂の高宮神社としてお祭りされています。お方は、クシミカタマの妹のイススヒメ（イスススヒメ）は、タケヒトのキミ（後の神武天皇）のキサキになられます。そしてお生まれになるのが、カナカワミミ（後に2代綏靖天皇）さまでした。つまり、タケヒトのキミ（後の神武天皇）の義理の兄にあたるのがクシミカタマです。

『ホツマツタエ』の献上された十二代ヲシロワケ（景行天皇）のキミの56年は、アススのコヨミの843年の事でした。アススのコヨミは、ヒトのヨの初代のカンヤマトイワレヒトのアマキミ（神武天皇）のお生まれになる6年前から始まり数えられるコヨミです。

オオタタネコの謹述した奉呈文の「ホツマツタエをノフ」に、13歳年上の、ヲラカシマが添え文を記しました。こちらは「ソエのハナヲシ」と呼ぶべき文章です。ヲラカシマさんは、春日大社の系統に祭られる人物です。アマノコヤネの直系の子孫に当たります。

この、奉呈のふたつの文章には、『ホツマ ツタエ』26アヤの例文を引用してあったりします。つまり、相当にヲシテ文献の知識を、その読解に必要とします。『ホツマ ツタエ』の全文をご覧になった後に、再度、読み直して頂くことをお勧めいたします。この解説文には、オオタタネコやヲヲカシマの言いたかったことを、わたくしが補足しました。おそらく、オオタタネコさんもヲヲカシマさんも、『ホツマ ツタエ』などヲシテ文献を相当に解かっている人を読者に想定しているようです。それが、奉呈のフミの「ホツマツタエをノフ（述べる）」の文章です。また、ヲヲカシマさんの「ソエのハナヲシ」の文章もそのように甚深な内容の文章です。現代人にも解かるようするためには、補足が必要になります。